

## 福祉サービス第三者評価結果

### ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 福祉総合評価機構

### ②事業者情報

名称：アスクわかば保育園	種別：保育所
代表者氏名：藤松 智子	定員(利用人数)：名
所在地：〒350-0214 埼玉県坂戸市千代田3-21-23ヴィラ・ボンセジュール若葉1F	Tel 049-280-5777

### ③評価実施期間

平成29年11月1日（契約日） ～ 平成30年3月31日（評価結果確定日）

### ④総評

#### ◇特に評価の高い点

環境設定の工夫や多彩・多様な日々の保育と行事の各取組、活発に持たれる地域との関わりなど、子どもたちの豊かな体験と成長を保障するさまざまな配慮がなされている

各室で子どもが選び、手に取れる位置への各種玩具・教材・絵本等の設置、遊びのコーナーの設定や食事と遊びのスペースの区分など、子どもたちの主体的な生活と遊びの保障に向けた環境の工夫を行うほか、1歳以上児が異年齢のグループで活動する「わくわくタイム」や「お店屋さんごっこ」をはじめとする活発な異年齢交流、周辺の公共施設・商業施設等を活用した社会体験、近隣の大学やさまざまな公園等での戸外活動、外部スタッフによる英語・体操・リトミックの各活動など、子どもたちの心身の豊かな成長を促す活動をさまざまに設けている。地域向けの保育所体験「ふれあい保育」で来園する地域の親子や、年3回夕方に行う「なかよしタイム」での保護者・祖父母などとの関わり、学生ボランティアによる紙芝居・ペープサート等の提供など、職員以外の大人との交流も持たれるほか、年長児が他市の神社へ電車に乗って出かける七五三参り、系列4園と合同で行う4・5歳児の工場見学、高齢者施設との世代間交流や運動会・「表現発表会」等の日頃の活動の成果を披露する各行事など、多彩な取組が設けられている。

日々の食事提供の充実やさまざまな食育活動によって、子どもたちの食への興味・意欲を培い、生きる力を育むとともに、家庭との相互理解を深める独自の工夫にも取り組んでいる

「こいのぼりランチ」「天の川そうめん」などの季節や行事にちなんだメニュー、誕生会に合わせて栄養士が趣向を凝らしたデザイン・調理で提供するケーキなど、毎月提供される見た目にも楽しい特別メニューを交え、おいしく豊かな食事の提供に努めるほか、プランターや園庭の畑での栽培活動や発達に応じて食材に触れ、年齢が進むに従って調理器具なども使いながら取り組むクッキング活動、栄養士による勉強会をもとに4・5歳児が野菜について資料を作成し、年3回の親子クッキングの席で「野菜はかせ」となって保護者に講義する取組など、独自の工夫も交えた食育活動も展開されている。また年2回の懇談会に加え、親子遠足や「なかよしタイム」「カレーパーティー」「おやじの会」等の園と保護者・保護者同士の交流を深める各種行事や、「のびのびカード」「ぜんぶたべたよカード」等の家庭と連携して子どもの生活習慣等の向上を促す取組も行うなど、保護者との交流・連携にもさまざまな工夫を凝らし、家庭と手を携えて子どもを支え、見守る関係づくりに努めており、利用者調査でも高い満足度を得ている。

園長が提供する保育サービスの実効性を高める取組の推進等において、積極的にリーダーシップを発揮している

園長が提供する保育サービスの実効性を高める取組の推進にリーダーシップを発揮している。利用者受け入れの前提となる、人格に配慮しながら職員の機能性を高める取組や、構造的に制約のある施設・設備を有効的に活用するための工夫に取り組み、これらを集約した総合力で利用者を正面に置いたサービスの質の向上に取り組んでいる。法人が積年の保育事業の運営から得たさまざまなノウハウに基づき形成した、保育サービスの質を図るための諸施策に、園での工夫を加えるなどして効果をあげている。またその成果の一端は、上記の利用者調査での高い満足度のほか、掲示物の見やすさを配慮した掲示、玄関ホールや廊下・各保育室・事務室の整理整頓などにも見て取れる。

## 福祉サービス第三者評価結果

### ④総評

#### ◇特にコメントを要する点

注力する各室内の環境構成の工夫をはじめ、子どもの豊かな育ちを保障するハード・ソフト両面の保育の充実をさらに図りたいと考えている

子どもの生活と遊びの充実に向け、3か年の計画のもとで室内レイアウトの工夫や上記の子どもの主体的な活動を保障するための環境構成の工夫に取り組んでおり、同県内の系列他園への職員の派遣も行うなど、重点課題として意欲的に取り組まれている。園としては施設の面積・構造上の制約も踏まえながら、遊びのコーナーの設定や各種玩具・教材等をさらに充実させるとともに、異年齢の関わりもさらに活発に行い、改定保育所保育指針に謳われる子どもの育ちを保障するハード・ソフト両面の保育の工夫をさらに深めたいと考えている。今後の検討と取組の進展を期待したい。

法人組織と園長が協働して機能するために、事業計画に係る諸計画の共有化が望まれる

保育所にはその事業特性から社会に対する公益的な責任があり、安定的かつ継続性のある運営が求められている。また法人や園が目指すことの実現には単年度で可能なことと複数年度を要するものがあり、複数年度を要する計画実現のためには中・長期計画を策定して定期的に進捗状況を確認する作業が不可欠となる。内容的には提供する福祉サービスの内容のみならず、組織体制や設備・職員体制・人材育成・地域との関わり・収支計画など多岐にわたる。これらの事項への取組の現状は、法人の専権事項に係る事項は法人内の複数の部署が個々に計画を策定し、園では主として保育サービスに係る事項の計画を策定する形になっており、園では園全体の諸計画が俯瞰できない。諸々の計画は園経営に一体的に作用することが望ましく、法人組織と園長が協働して諸計画の達成に向けて機能するための共有化が望まれる。

保育所の社会的責任や保育事業の公共性等に鑑み、園経営の透明性を確保するための情報公開への取組を期待したい

評価基準は、事業所の事業や財務等に関する情報について、適切に公開し、運営の透明性を確保するための取組を求めている。また事業や財務等に関する情報を公開することは、公費による福祉サービスを実施する主体としての説明責任を果たし、経営の透明性を図る取組であるとしている。その観点から、本評価基準でも求められている事業計画や財務等の情報について、保育事業の公共性にも鑑み、適切な情報公開への取組が望まれるほか、この点についても上記同様に法人と園との協働を図ることが期待される。

### ⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

今年度は、室内環境の整備をすすめ、子どもたちがより主体的に遊びこめる環境づくりに力を入れてきました。昨年度よりの課題に於いて、工夫を重ねましたが、施設の制約等限りがある中で不足部分もある為、今後も改善を図っていきたいと考えております。また、今年度は初めて異年齢のグループ活動を取り入れました。保育者が、少人数のグループを担当することで、クラス担任の枠を超えた関わりを持つことができ、子どもにとっても憧れ、好奇心、思いやりの気持ちが育まれ、大変大きな成果となりました。次年度も継続的に、子どもたちの遊びの充実に向け、取り組んでいきたいと思っております。今後もさらに地域に根差した保育園を目指し、情報発信と信頼関係を深めると同時によりよい保育を提供できるよう努めて参ります。

### ⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり

#### ■判断基準について

判断基準の「a・b・c」は、評価項目に対する到達状態を示しています。

	判断基準の考え方
a	より良い福祉サービスの水準・状態 質の向上を目指す際に目安とする状態
b	aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態 「a」に向けた取組みの余地がある状態
c	b以上の取組となることを期待する状態

平成27年5月22日埼玉県福祉部社会福祉課長事務連絡  
「福祉サービス第三者評価における判断基準について」